

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	オラパリブ(卵巣がん)
診療科名	婦人科
診療科責任者名	大塚 伊佐夫
適応がん種	白金系抗悪性腫瘍剤感受性の再発卵巣癌 BRCA遺伝子変異陽性の卵巣癌における 初回化学療法後の維持療法(※)
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	Ov-029
登録日・更新日	2018年4月24日 2019年8月27日更新
削除日	
出典	リムバーザ添付文書
入力者	川名 晶子

投与順に記入(抗がん剤のみ)

No.	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	オラパリブ (リムバーザ錠)	100mg、150mg	300mg/回	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> IVHポート <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(経口)	1日2回	連日

1コースの期間	設定なし
投与間隔の短縮規定	設定なし
計算後の投与量上限値	300mg/回
計算後の投与量下限値	200mg/回

減量・中止基準	<p>【開始基準】 Hb\geq9g/dL、ANC\geq1500/μL、Plt\geq7.5万、T-Bil\leq1.5ULN、AST、ALT\leq2.5ULN、SCr\leq1.5ULN</p> <p>【減量基準】 HbがGrade3以上 Hb\geq9g/dLになるまで最大4週間休薬 1回目の再開→減量せず。2回目の再開時250mg/回へ減量。3回目の再開時200/回へ減量。 ANCがGrade3以上 Grade1以下になるまで休薬 1回目の再開→減量せず。2回目の再開時250mg/回へ減量。3回目の再開時200/回へ減量。 Plt減少Grade3以上 Grade1以下になるまで最大4週間休薬 再開時減量せずに投与。 上記以外の副作用 Grade3以上 Grade1以下になるまで休薬 再開時減量せずに投与。</p>
前投薬	なし
その他の注意事項	<p>【白金系抗悪性腫瘍剤感受性の再発卵巣癌における維持療法】 ・再発時の白金系抗悪性腫瘍剤を含む化学療法で奏効が維持されている患者を対象とすること。</p> <p>■ 投与対象の患者</p> <p>● プラチナ製剤感受性再発 (プラチナ製剤を含む化学療法終了後6ヵ月以降に再発) ● 再発後にプラチナ製剤を含む化学療法を実施し、完全あるいは部分奏効している</p> <p>【BRCA遺伝子変異陽性の卵巣癌における初回化学療法後の維持療法】</p> <p>■ 投与対象の患者</p> <p>(BRCA遺伝子変異陽性の卵巣癌における初回化学療法後の維持療法)</p> <p>● 進行卵巣癌 (FIGO進行期分類: III-IV期)と診断され、BRCA遺伝子変異陽性 ● プラチナ製剤を含む初回化学療法を実施し、完全あるいは部分奏効している</p> <p>・100mg錠と150mg錠の生物学的同等性は示されていないため、300mgを投与する際は100mg錠を使用しないこと。</p> <p>・腎機能障害患者における用量調節(海外添付文書) CrCL\geq51mL/min 1回300mg 1日2回 31<CrCL\leq50mL/min 1回200mg 1日2回 CrCL\leq30mL/min 使用経験なし</p> <p>・併用注意薬剤:CYP3A誘導・阻害作用を有する薬剤 中等度以上のCYP3A阻害剤を併用する際には減量も考慮する</p> <p>・(※)BRCA遺伝子変異陽性の卵巣癌における初回化学療法後の維持療法の場合、 本剤の投与開始後2年が経過した時点で完全奏効が得られている患者においては、本剤の投与を中止すること。</p> <p>・(※)BRCAAnalysis診断システムがコンパニオン診断薬等として製造販売承認されている。</p>

記入者	川名 晶子
確認者	大塚 伊佐夫